

血液・造血器学

【単位数：1.5単位，授業23コマ，予備2コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

高見昭良 教授(血液内科)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b)

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために、血液疾患の病態、検査、診断、鑑別診断、治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また、これらの学習過程において、自ら学修目標を設定し、継続的に学び、その成果・知識を他者と共有することを通じて、「プロフェッショナリズム」の涵養を図る。
- ② 血液疾患の症候(鑑別診断を含む)、分子・遺伝子病態、診断、治療(造血幹細胞移植・輸血を含む)を理解する。

(2) 学修目標

- ① 血液の生成、代謝、役割、形態、異常病態を理解し、疾患を列挙できる。
- ② 血液疾患関連症候から必要な情報や検査法を挙げ、結果の解釈と鑑別診断ができる。
- ③ 血球の多寡を来す疾患の病因、病態、病理、症候、診断、分類、治療、予後を説明できる。
- ④ 血液がん、伝染性単核球症、血球貪食症候群の病因、病態、病理、症候、診断、分類、治療、予後を説明できる。
- ⑤ 血栓・止血・凝固・線溶関連疾患の病因、病態、病理、症候、診断、分類、治療、予後を説明できる。
- ⑥ 造血幹細胞移植の特徴、適応、合併症、対処法を説明できる。
- ⑦ 化学療法の効果、毒性、支持療法を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	95%	講義内容と「病気がみえる 血液 vol 5」から多肢選択肢及び記述式で出題する。
レポート	○	5%	講義内容に基づきA4一枚程度のレポート提出。
態度	○	—	態度不良の場合は、総合成績から10点を限度に減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験とレポートの合計が60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する。

レポートが60%未満の場合は、レポートの再提出を行う。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験の解答を公開する。再試験の解答は原則公開しない。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
病気がみえる 血液 vol 5	医学情報 科学研究 所 編	医療情報科 学研究所	わかりやすいため。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
ハリソン内科学 第5版(原著第19版)	福井次矢 (監修) ほか	メディカルサイ エンスインター ナショナル	内科医に必要な知識が網羅されている ため。
内科学 第12版(2022)	矢崎義雄 (総編集)	朝倉書店	内科医に必要な知識が網羅されている ため。
内科診断学 第5版(2024)	福井次矢, 奈良信雄 (編集)	医学書院	内科医に必要な知識が網羅されている ため。

6 準備学習(予習・復習)

- 参考図書のどれかを選んで、その目次全体を眺め、どのような事項が取り上げられているのか確認しておく(1コマあたり約15分)。
- 上記の中で、興味を惹いた項目について記載内容を読んでおく(1コマあたり約0.5時間)。
- 1コマ目の講義で配付された資料について講義後に内容を再確認し、2コマ目以降の講義に臨む(1コマあたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

大教室での知識伝達型講義を原則とする。一部小グループ討論や質疑応答などアクティブ・ラーニングの導入を考慮する。

(2) 講義の内容

教科書内容にとどまらず、臨床・研究の最先端知識を含める。